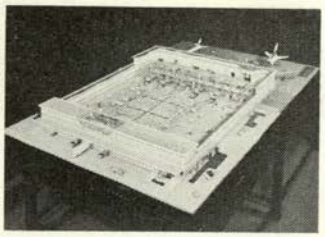
ポケットジャーナル

★将来の貨物ターミナルを三菱重工が試設計

神戸港に米国のコンテナ専用船第一船が入港し、淡路に国際空港の建設など、将来の貨物取扱いにコンテナの研究が進められてきたが国際空港のエアー貨物ターミナルの理想的なシステムデザインが、このほど三菱重工から発表された。



貨物ターミナルの模型

この貨物ターミナルは間口一一〇㍍、奥行一四〇㍍で飛行機の機首が入口に突込み、機首から貨物を受出して、受付から計測、仕訳、通関、ローデング、引渡し設備まで大幅な電子計算機システムの採用と、それぞれの機器はリモートコントロールですべて自動化されており、貨物を一日当り一〇〇〇㌧をわずかに二五〇人で迅速に、また正確に処理できるように設計されている。

航空貨物の飛躍的な伸びは、大型機の就航、大量輸送とコンテナリゼーションの傾向的な低下と、それぞれが互いに関連しながら経済構造の高度化にささえられて、今後もますます増大されると予想されている。

海外の主要空港ではすでに独自の研究で航空貨物施設の近代化、機械化に取り組んでおり、一部の航空会社の貨物ターミナルは稼動をはじめている。一九七〇年には他の貨物ターミナルもすべて建設が完了する見込みである。

★兵庫県文化賞フェスティバル開催さる

秋晴れに恵まれた〝文化の日〟の三日午後一時から兵庫県の文化賞フェスティバルが神戸国際会館大ホールで開催された。

この日文化賞を受賞したのは、書道家の樋口俊次氏洋画家の津高和一氏をはじめとする四氏一団体。国際文化賞はリー・レオノラ・エジスさんら二氏。喜田村正次氏ら五氏一団体にはスポーツ賞が贈られた。

君が代斉唱に続いて、金井兵庫県知事の「我々はこれらの人々のおられることを県民の誇りとしている。県民が文化的に価値の高い生活ができるように、今後のご指導をお願いしたい」というあいさつがあり、各受賞者一人一人の手に、表彰状と記念品が手渡された。

このあと丹羽兵庫県議会議長の祝辞があり、美しい振袖姿のお嬢さんから花束が贈られて文化賞、科学賞、スポーツ賞贈呈式は終った。

国際会館での表彰式風景

式後、香住の三番叟、和田山のザンザカ踊り、洲本の三態踊りと郷土芸能が舞台をいろどり、二部では古典舞踊がはなやかに踊られた。

誕生日ありがとう運動

精神薄弱児（ちえの遅れた子たち）は、百名中三～四名は必ず出現しています。その原因を調べてみますと、遺伝によると思われるのは、全体の約二十％とごくわずかであとの約八十％は外因性です。いいかえれば、精神薄弱児問題はわたしたちの中のだれに、いつふりかかってくるかもしれない問題なのです。つまり、精薄者（児）やそのご家族の方々は、健康な人たちの身代わりとなって、その重荷に耐えてくださっているともいえます。現在経済的に、精神的に、あるいは社会的にと、さまざまの重圧の下で、いいしれぬ苦悩を味わっておられる方々に、心身ともに健康に恵まれたわたしたちが何らかの形で感謝と激励の意を表わしたい。このような発想のもとに生まれたのがこの「誕生日ありがとう運動」です。

具体的には、毎年めぐりくる誕生日のお祝いの中から、わたしたち一人一人が意識的に一〇〇円を節約し、精薄児(者)のために献金する。そして各家庭で、この問題について話し合う機会をもうける。

このことを手がかりとして、わたしたちすべてが精薄児問題を正しく理解し、精薄児(者)を暖かくつつむ雰囲気をひろげると同時にわたしたち一人一人のかけがえのない生命についても思いをめぐらせて、誕生日を有意義なものにする。こうしたあなたとわたしの運動、それが「誕生日ありがとう運動」です。この趣旨にふさわしい方法を、各家庭で、学園で、地域で考えていきたいものです。また、この趣旨に賛成の方は左記へご連絡ください。

★神戸市長田区前原町一ノ一
神戸市立室内小学校
TEL69〇九一七・〇九一八

会場では約千人の人々がこの日の受賞者を祝っていたが、受賞者の一人、洋画家の津高和一氏は「芸術は特別なものではない。一個の人間としてのあたりまえの行為に賞をいただいたのは気恥かしいが、無償行為が認められたことは非常にうれしい。これからも芸術をより新鮮な、より皆に浸透するものにしたい」とよろこびを語っていた。

★第25回関西経済同友会大会開かれる

第二十五回関西経済同友会大会がさる十月二十七日神戸オリエンタルホテル二階の大ホールで開かれた。

大会は午後一時から関西経済同友会事務局長の峰永了作氏の開会挨拶ではじまり、議長に関西経済同友会代表幹事伊部恭之助氏（住友銀行専務）と神戸経済同友会代表幹事宮地襄二氏（宮地汽船社長）がそれぞれ選ばれた。

議事は関西経済同友会代表幹事宮崎輝氏（旭化成工業社長）の〝経済成長の目標〟〝経済における問題点〟など五項目についての問題提起がおこなわれた。

続いて「潑剌とした企業活動を経営者の責任」と題して神戸から岩武照彦氏（神戸製鋼所常務）が、さらに広島・奈良・徳島・滋賀・福井・岡山・鳥取・和歌山・京都・愛媛などからそれぞれ代表が意見発表をした。

熱気のこもった関西同友会大会

同四時には共同声明案を採択、広島経済同友会代表幹事原幸夫氏の閉会挨拶で大会は幕を閉じた。

なお閉会後、同五時から大会懇親パーティーが同所でにぎやかに開かれ、大会は盛会のうちに終った。

★表彰された10名の発明考案者たち

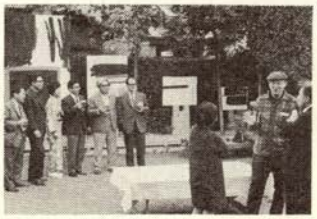
昭和四十二年度の優秀発明考案者十名（うち六名は補助金交付）が決定され、十月二十八日午前十時半より、知事応接室にて受賞式が行なわれた。これは兵庫県発明研究補助審議会規則により、鉱工業に関する発明及びその研究の優秀なものに対して、県が補助及び知事賞を交付することにより鉱工業の振興を図ることを目的とするもので、この日は、坂井副知事より表彰状が手渡された後、「換気扇装置の自動化研究」の田口尚義氏ら、三つの研究試作品の発表と説明があった

受賞者は次の十名で、公害防止問題と長年取り組んでいる大岩達和氏は、昨年に引き続き、二回目の受賞である。小田助三郎（66）、田口尚義（31）、大上林平（63）、庭野七郎（43）、松本義吉（48）林義三郎（74）、羅川健治（31）、大岩達和（50）、金森清次郎（43）、奥野敏夫（64）（敬称略）

日頃の地道な研究の苦労が認められた受賞者たちは晴々としてうれしそうだった。これからも、より便利な、生活の役に立つ、画期的な発明工夫に一層の意欲をもって取り組んでくれることだろう。

★盛況だった津高和一氏オープニングパーティー

十月二十六日三時より、恒例の津高和一氏の個展が西宮の自宅で幕を開け、オープニングパーティーが芝生の広い庭で、日没まで一五〇人の人々が集まり開かれた。



なごやかなパーティー風景

今年は東京から美術評論家の大岡信、小海永二氏が参加。また京都から矢内原伊作氏など珍しい顔ぶれがみられた。

★神戸の〈おしゃれ〉が秋の東京に入港！

ミナト神戸のユニークな専門店24店による「ミナト神戸おしゃれフェア」が、秋も深まった十月二十日～二十五日の六日間、西武百貨店（東京・池袋）七階特別催場にて、華やかに開催された。

さわやかな秋の雰囲気に包まれて入港した、神戸のあらゆる〈おしゃれ〉は、江戸っ子たちの目を楽しませ、今春五月に開かれた第一回のフェアの時の二倍の盛況だった。

神戸百店会では、ファミリア、芸夢、うネ、ムラタ、セリザワ、ヨシオカ、スギヤ、マスヤ、元町バザーなどのお店が参加。また、同時に「ミナト神戸うまいもの会」が地階・食品催場で、「ちんがら屋」が四階呉服売場で開催され、好評だった。

盛況だった会場風景

今回で二回目を迎えた「ミナト神戸おしゃれフェア」も、元町から三宮までエキゾティックなお買物の散歩道として、東京の神戸ファンにとって、すっかりおなじみとなったようだ。

神戸っ子のハイセンスは、江戸っ子にとっては、一種のあこがれだそうで、「高いものほどよく売れた」とか。「これからも、ますます人気を呼びそうなので、楽しさと夢のあふれた〝ミナト神戸おしゃれフェア〟は、年に二回（春と秋）づつ、開催したい」と杉浦実スギヤ社長は語っていた。

最近やや繊細なナイーブな感覚が、表われていた画面が、また直線の図太いダイナミックさを加えて、エネルギッシュな緊張感のある画面。十一月三日には兵庫県の文化賞を受賞、ますます詩的抽象画家としての本領が発揮されることだろう。ほかに足立巻一、早川良雄、亜騎保、田辺聖子、港野喜代子、鵜殿礼栄さんなど多彩な顔ぶれ。

十一月二十八日にはオリエンタルホテルで、兵庫県文化賞受賞の記念パーティが友人間で開かれた。

★横塚繁画伯
郷土神戸で初の個展

二紀会の東京在住の横塚繁画伯は、今、松本清張、梶山季之、黒岩重吾など人気作家のさし絵で大活躍の人だが、このほど十一月十日から十五日まで、出身地神戸で初の個展をそごう八階画廊で開いた。

主に婦人像と風景画の淡彩画、パステル画三十数点がかけられ、神戸港風景など鋭いタッチで描かれた絵またフーテンの風俗画、婦人像に横塚氏らしい都会の女の清濁あわせた色気のにじんだ絵が人気を呼んだ。

「ぼくらのようにいわゆる東京美術学校（今の芸大）出身者はどうも、飛びはなれた抽象画へははいり込みにくいですね。どうしてもまず適確なデッサンの上に積み重ねてゆくやりかたしか危っかしくて出来ませんまた、現代のように、デッサンのような基礎をバッチリやらないで飛び出す若い世代の画家に〝どうかな〟と疑問も湧きますネ」と語っていた。

そごう8階画廊で横塚氏

★関西で初の音楽結婚式

エレクトーンによる音楽結婚式が、このほどオリエンタルホテルで挙げられた。

これは日本楽器神戸店とオリエンタルホテルの企画で新聞公募し、応募者六組のうちから二組を選んだもので、式の費用はいっさい無料というもの。

関西では初めてという企画だけに、一般から未婚の女性二二〇名を招待という呼びかけに多数の人が応募抽選で選ばれた若い女性は二組の素晴しいカップルに終始うっとりとした表情。

式は司婚者に内海重典氏司会はイソノテルオ氏と、大牧暁子さん。エレクトーンの演奏のうちに誕生した二組のカップルを祝って、参列者全員で「新妻に捧げる歌」を合唱。披露宴では音楽結婚式にふさわしく、カップルが舞台の上で仲良くデュエット。参加者の盛んな拍手を受けた。

参加した女性の中には来春式を挙げる人もいたが、明石から来たという参列者の一人は「厳粛なだけの結婚式と違って、くつろいだ雰囲気がよかった。音楽が主体だったのも最高」と、なかなか好評な音楽結婚式だった。

参列者の見守るなかで音楽結婚式

★夜の神戸を司どる騎士（ナイト）
神戸J・B・A10周年

J・B・A（日本バーテンダー協会）の神戸支部（支部長柳瀬康治氏）が、十周年を迎えて十一月二十九日一時から、スカイサントリーで祝賀パーティを開き、神戸のバーテンさん七〇名が出席した。

当日は十年在籍した二十八名が表彰された。J・B・A関西本部会長の井内金司氏は「神戸は横浜と並んでBAR発祥の地ですが、港町の特色で貿易の中心地

ショップ・トピックス

★〝ユーハイム・コンフェクト〟では、三宮センター店を十月二十四日オープンしました。地上三階地下一階で、それぞれ異ったムードのいこいの場としてスタート。ぜひお立寄り下さい。

★さんちかファミリータウンにおもちゃの〝カメヤ〟が11月1日拡張オープンしました。

★元町にあかぬけしたフランス風の喫茶「元町ドンク」ができました。この店は〝元町家庭電器販売KK〟と〝株式会社三恵洋服店〟の共同出資で十一月三日オープンしたもので、お菓子は〝ドンク〟の製品を販売。前面を喫茶室、奥をガーデンとしゃれた雰囲気が自慢です。

★百店会のお店九店が合同して、十二月一、二日の両日三宮ビル二階で恒例の大バーゲンセールを行います。参加店は、〝オカダ洋傘店〟〝シラサ〟〝ヨシオカ〟〝みよしや〟〝渡辺〟〝タジマ〟〝元町バザー〟〝スギヤ〟〝エスターニュートン〟で、当日は各商店の品が半額以下で販売されます。なお、時間は午前九時から午後五時まで。

★東京西武で開かれた第二回ミナト神戸のおしゃれフェアに先だった神戸のうまいもの会、ヒロタ、亀乃井亀井堂、ユーハイム、大井肉店、モロソフなどに加わって神戸名物〝たこやき〟の蛸壺が店開きをした。連日おすなおすなの大盛況で、二週間、江戸っ子に明石蛸のタコ焼を賞味させたわけ。

とにかくエレベーターが降りるたびに地下のうまいものコーナーへどっと押しよせて来る敵を（?!）なぎ倒しなぎ倒し。木村憲吾氏曰く「オレはタコ焼の機械やないで——と怒ってみてもしょうがない。ただヒタスラに焼いてきましたワ。それにアルバイトのお姉ちゃんは最後まで明石（アカシ）の蛸といいよらへん。明石（アケイシ）の蛸といいよった。東北の人らしいて、知らんいいよる。話にならへんネ」とボヤクことしきり。

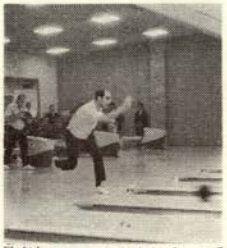
であるため外人に接触するチャンスも多いせいか、大変あかぬけたバーテンダーが多いところです。語学の上手い人も多いし、また世界の新しい飲物をよく知っているし、日本の玄関口の夜の騎士としてはボッーとしていてはつとまらないところですよ」と神戸のバーテンのレベルの高さを語ってくれた。

★秋の神戸に集まったボウリング選手たち

「第七回全国スターレーンボウリング大会」が、十月十四、十五日に、神戸スターレーン（生田区江戸町九五）で開催された。十四日は十二時半から開会式が行なわれ、昨年度優勝チームの川崎スターレーンより優勝旗の返還、中野徳次理事長、牛尾吉朗会長のあいさつのあと、神戸スターレーン選手代表の近藤春美さんが選手宣誓して、一時より競技が開始された。

全国二十七センターより集まった代表選手約一八〇名によって、二日間にわたり熱心な競技が展開、団体戦では昨年度に引き続いて川崎スターレーンが優勝。個人戦Aクラスは米良広勝Bクラスは太田栄一、Cクラスは田辺公二、シニアクラスは高野兼道、レディスクラスは中山律子の五選手に栄冠が輝いた。神戸の選手も多いに奮斗し、鈴木健彦選手がCクラスの三位に入賞し、地元の面目をほどこした。

また十四日の六時からは日本ボウリング・チェーンKKの招聘で来日していたアメリカのプロボウラー、レス・シェスラーとカルメン・サルビーノ、日本のプロボウラー、水谷稔、川井英一、須田開代子ら五選手による模範競技が行なわれプロボウラーとしての最高の技術、見事な投球フォームが披露された。



見事なフォームのサルビーノ氏

花時計

「'67神戸10大ニュース」

いよいよ、一九六七年もさようならです。

この一年、神戸にもいろいろありました。歳末になれば新聞、週刊誌などはいっせいに十大ニュースで賑わうことでしょう。この「花時計」欄でこの神戸十大ニュースをやってみましょう＝協力月刊神戸っ子編集室＝

第一位　神戸開港一〇〇年祭で大はりきり、全国のマスコミを神戸色で塗りつぶしてしまった。

第二位　集中豪雨で神戸大被害を受けて沢山の死者を出し、原口市長をして「これからは六甲山系の治水に目を向ける」といわせました。

第三位　コラーサ号、神戸に帰る。神戸っ子ヨットマン鹿島郁夫氏が、太平洋を横断、ヨットに乗って神戸港に帰り市民の祝福を受けました。

第四位　山陽電車爆発事件に市民は吃驚仰天。このあたりは日本的に通用します。第五位　日本一の地下街ショッピングセンター、さんちか全完成。第六位　六甲トンネル開通。第七位　コンテナー船第一船入港。第八位　マウントコウベ登頂に成功。第九位　神戸港でホーバークラフトが飛ぶ。第十位　神戸商工貿易センター起工式と前向きの十大ニュースはいかがでしょう。（Y）

★CINEMA

●二人だけの窓

住宅難で夫の家族と同居することを余儀なくされた若い男女の悩みに、その父親や母親たちの哀歓を織りまぜて、親子、夫婦の愛の交流を描いた、心あたたまるドラマで、ビル・ノートンのヒット戯曲「待てば海路の…」の映画化。

新妻のジェニーに、イギリスの若手女優No.1のヘイリー・ミルズがはじめての人妻役で、初々しいなかにも女らしさのあふれた好演。

ジェニーの夫、アーサーを演じるハイウェル・ベネットは、舞台出身の新人で繊細な魅力の持主。

アーサーの父親エズラにヘイリーの父親ジョン・ミルズ、エズラの妻にマージョリー・ローズ、その他、アブリル・アンガース、リズ・フレーザー、ウイルフレッド・ピクルズなどが出演。

ビートルズのポール・マッカートニーが初めて映画音楽を担当。

●神戸っ子愛読者の方に、毎月抽選で十名様をOS劇場特別試写会へご招待いたします。

毎月十日までに、「○月分OS特別試写会申し込み」とお書きの上、編集部宛葉書でお申し込み下さい。

リンゴ酢と蜂蜜で
腕をふるった
新しい〝味〟
このおいしさが
美容と健康にプラスします

神戸三宮生田ノ社ノ西
鮒の又平
電話・三の宮 ㉝ 0935

忘年会 幹事様へ

御苦労様です幹事さん!!
貴方の黒字も私の赤字も
三味に合せてほい、ほい、ほい!!

忘年会はやっぱり畳の上で!!御予算通り一銭も出しません
◎それでよろしい

⊙
△赤坂名物 吉野鍋（若どり野菜変り鍋）
△清盛焼（神戸肉を焼いて野菜をたっぷり）
△蔵王鍋（山海の珍味二十五種入鍋）
一、〇〇〇円より
お酒一本つけて
お料理 魚すき、てっちり、鯛ちり、かしわ水だき、
其の他魚ちり、ブタちり、すきやき、
かにちり、牛肉しゃぶしゃぶ、一品料理
御会席料理、一品料理
お申しつけ下さい

一〇人、二〇人、三〇人、四〇人
一〇〇人でも一部屋で
一度に出来ます。

神戸・中山手・四
お料理
一ばん
赤坂

22—7836. 7846

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ グループでスコール!! ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

日本バーテンダー協会神戸支部J.B.A.グループ

神戸はBAR発祥の地。ぼくたちは神戸の夜をつかさどる騎士（ナイト）である。J.B.A.の神戸支部が10周年を迎え今日は70人のナイトが、スカイサントリーでスコール！。スカイサントリーは神戸の街と六甲山の見えるスカッとした景色とサントリーの純生の評判がいいので集まった。青年のビールにふさわしい若人の集りということだ。　岩崎利之　〈J.B.A.神戸支部・副支部長兼人事部長〉

飲みほうだい〈サントリー純生ビール〉クラウン・スカッシュ＋食べほうだい！〈北欧風ヴァイキング料理〉　1,200円〈飲食税 120円別〉

なごやかな
ムード
すばらしい
眺望！

ビヤレストラン
スカイサントリー
三宮交通センタービル9階　TEL ㊴3705～6

悪童物語

足立巻一
え・津高和一

ぼくたちは「悪童」ではなかった
しかし「善童」でもなかった。

3 コウモリ

前号まで……ぼくが薬局を営む伯父に養われていた中学生のころ、福井県鯖江から来た少年店員があり、性の世界をキラリと示された。その日から三十数年が過ぎ、その少年は鯖江に帰り、家業の温泉旅館をついでいると聞いて、旅の途次にたずねてみようと思った。しかし、名も忘れ、温泉旅館ということだけをたよりに電話すると、あいにく不在だったが、若いころは神戸で働いていたという家人の返事を得た。専門学校時代に世話になった木蓮夫人をたずね、夜おそく旅館にはいってふたたび電話すると、年齢が若いし、先方はぼくに心おぼえがないという。それでも、神戸の人ならなつかしいといって宿へ来てくれたが、あの少年店員とは似つかぬ別人だった……。

どうも変なあんばいになった。

ぼくは所在なくビールばかりあおった。先方にしきりにすすめるが「あまりいけませんので」とか「くるまを運転してきましたから」などといって、客はヒザを固くしているばかりだ。

年も四十になったところだという。金ツボ目で、アゴがとがり、皮膚の色がさえない。あの少年店員のぽっちゃりした丸顔、サクラ色をおびたキメのこまかい白い頬、メガネをかけた人なつこい目とはすべてが反対だ。

「神戸にいたのは戦争に負けたすぐあとなんです。三宮にはヤミ市がゴジャゴジャしてましたが、ずいぶん変わったでしょうね」

もう、かなり長く神戸は知らないという。

「ええ、見当もつかんようになって、あんたもきっとマゴつきますよ」

「そうでしょうなあ。よう遊んだもんですわ。予科練くずれでしたからね。ショウチュウ飲んで、ジャン市でようケンカしましたわ」

話しているうちに、客にも神戸弁がすこしずつあらわれはじめた。予科練の飛行兵として沖縄にいて、死ぬつもりでいた。それが突然敗戦で送還されたが、郷里にはとても落ち着けずに大阪へとびだし、川崎造船所多奈川工場につとめたが、それが神戸工場に配置がえになった。酒を飲んで遊びほうけているうちに、化粧品屋の娘となかよくなり、子が生まれた。あげくはその店の入り婿のようになった——と、客はしゃべりはじめたのである。

「それが電話に出たいまのおくさん？」

「それがちがいますねん。神戸の女とは別れました。あんまり気の強い女でしたさかい……」

「子どもは？」

「神戸で育てられてます」

「……」
「しかたなかったんです」
父が病気になって、はじめて妻子をつれて鯖江に引きあげたが、女がどうしてもなじめずに神戸へ逃げて帰ったのだという。
「そのうち、おやじが死にまして、フロ屋をつがないけんようになりましてね。わしも何べん神戸へ逃げたろか思いました。三宮のゆめ、よう見ましたわ。でも、先祖代々の家業は絶やすわけにいかんし、親戚が目を放しまへん……」
その温泉は明治初年に祖父が苦労して掘ったものだという。三年ほどして気分が落ちつき、正式に離婚していまの妻と結婚したのだそうである。

「もう、子ども二人おます。どっちも男で、うえのやつは小学校です。わしに似てケンカばっかりしよります。でも、これでよかったんやとちかごろは思うてます。神戸の女もムコもらいよりましたし、な……」
そのころになって、客もビールをガブ飲みしはじめ、すでにビンはからっぽになり、おかわりを注文するためにベルを押すと、おしろいの厚い仲居らしい女が三人もはいってきた。そして、いきなり客に「帰りにくるまに乗せてや」と甘え、かれは「うん、うん」といっては「向こうで待っとれ」と手で払った。女がいなくなると、客は声をひそめて
「あれら、みんな遊女でしてん。わし、三人とも遊んだことおます」
かれは、にやっと笑った。歯はあの少年とちがって黄色い。近くの遊廓で客をとっていたのが売春禁止法で、仲居をしているのだという。
「あれら、帰るとこ、おまへんのや……」
そのときになって、鋭い金ツボ目も意外に素朴で、かなしそうなかげりを持っているのに気づいた。それにしても、ぼくはどうにもわけがわからない。
「大阪のにいさんは、あんたに似てますか？」
「ええ、もっと背が高いんですけど」
ますますおかしい。客は筋骨質らしい長身だ。その兄はさらに背が高いとすれば、ぼっちゃりしたあの少年店員とはちがう。しかし、客に兄と妹とがあるとすれば、ぼくの知る店員はその兄としか思いようがない。
その客はビールのコップをおいて、うつむいて考えこむふうをした。しばらくして顔をあげて、
「その男、ヤマニシいいまへんでしたか？」
「それが名前、全然おぼえとらんので、ね」
「じゃ、きっとヤマニシですよ。いま、東京にいます。メガネをかけて、鼻の高い……」
「鼻はそんなに高くなかったですが……」

客はまた考えこみ、それから奇妙なことを語りはじめたのだ。

「おやじは侠客みたいな男でしてな、身よりのない子はみんな自分の子にしよったんです」

両親に死なれた子や遊女が生んだ子があると、全部引きとって養い、私生児は自分の庶子にしたという。それで、戸籍では二十人近い子持ちということになった。引き取られた子どもらは高等小学校まで出してもらうと、それぞれ都会へ働きに出た。父が死んだときにはそれぞれ片見わけをし、戸籍を整理した——というのである。そのうちでは、ヤマニシが年、格好が似ていると確信ありげにいった。

「ヤマニシに妹さんありましたか？」

「妹？　おりませんけど……」

「ぼくの知ってる人は、妹があったというんですが」

客の実の妹を、少年店員は妹にしていたのかもしれないとは思ったのだが……。

そのとき、客は金ツボ目を精いっぱい大きくした。

「ワタセ・コウスケちがいますか？」

ぼくは、そのとき、むしろ自分自身にあっ！　とおどろいた。

「そうです。ワタセです。コウスケです」

完全に忘れきっていると信じていた名が、刃物のように脳を割いて突然、よみがえったのである。ぼくも伯母も「コウスケ」と呼びならわしていたのだ。

「ワタセねえ。妹、いましたよ。口のうまい……」

それから、かれが語り聞かせたワタセ・コウスケはまちがいなくぼくの求める少年店員であった。

「戦争前から満州へいってましてね、おやじが死んでだいぶしてから、ひょっこりヨメさんつれてやって来ました。落ちぶれた格好でした。ヨメさんはクロウトあがりでしたな。片見をわけてやると、新潟へいくいうて出ていきよりましたが、それから消息わかりまへん。根がないいうのか、どうもひとところにじっとできん男でして、それに遊び好きでして……」

ぼくには、それ以上たずねることはもうなかった。

客はいまフロ屋を改造中で、ほどなく鉄筋三階建ての温泉旅館にすると語り、——その仕事に熱中しているらしく、できあがったら招待するからぜひ家族づれで来てほしいと何度もいい、仲居たちを引きつれて帰っていった。

ぼくはきっとたずねることを約束し、かれが運転するライトバンが消え去ると、部屋で残ったビールを飲んだ。褐色の液体はなまぬるくなっていて、のどに引っかかる。

ワタセ・コウスケは、なぜ、温泉宿の息子のようにぼくに語ったのだろうか？　理由はわかっている。娼妓やパンパンとよばれる女たちが、身のうえ話になると、きまって家も生まれもよかったが、まま母がいてとび出したなどと涙をうかべて物語るのと、それは同じ性質のものであったろう。かれは、あるいは遊女の、あるいはメカケの子であったのかもしれない。

かれがぼくの店をやめるといいだしたとき、ぼくはこっそり外へつれだして、思いとどまってほしいといった。そのとき、コウスケにやめられたら、店員のあてはなく、ぼくが代わりにご用聞きにまわらなければならなかったし、そろそろ上級学校の受験勉強も始めなければならなかった。ぼくはかきくどくように、懇願するようにもう一年いてほしい、とくりかえした。

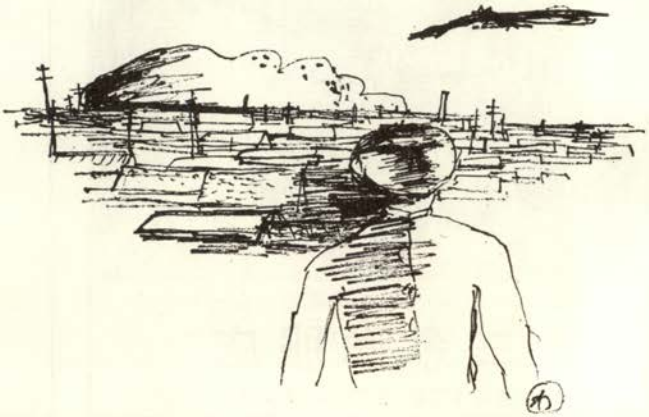
コウスケの黒い瞳に、当惑しきった、かなしそうな影がゆれた。

「でも、ぼっちゃんは大学へいくんでしょう？」

そのひとことで　ぼくは懇願をやめた。コウスケのいうことは、自分にも希望の道を歩かせろ——という意味であるのがわかったからだ。目には憎悪さえにじんでいた。

そうして、コウスケはぼくから消えた。

そのように、ぼくのめぐりあった少年たち、ぼくが好きだった少年たちは大方が消えていった。病気で早死にしたのもいるし、戦死したのも多いし、戦後のドサクサ



のなかにゆくえを絶ったのもいる。いっしょに詩を作った多くの少年で、いま生きて、しかも詩を書いている連中は何人いるだろうか？

ぼくの少年たちは、白鳥の群れのように――ではなく、コウモリのように飛び去ったと思った。コウスケという名が、ぼくに突然、コウモリの記憶をよびさましたのかもしれない。あるいは少年のぼくには、コウモリは親しいなかまだったからかもしれない。昭和のはじめごろ、生田筋には日が暮れるとコウモリが飛んだ。それは頭上をかすめ、低い軒を滑走しては夜空へ飛翔した。ぼくたちは「コー、コー、コウモリ来い」と、「ホタル来い」の歌のフシで呼びかけた。そのころ、生田の森にはコウモリの群れが棲んでいて、日が暮れると街を飛び、夜あけとともに掻き消えるのだった。

ある昼、生田の森のクスの大木にひとり登ってふと空洞をのぞくと、コウモリがそこにさかさまにぶらさがって眠っていた。ぼくは悪事を仕出かしたもののようにそっと木をおりたことがある。そのころ、読み方の教科書で、コウモリは鳥のなかまからは鳥でないとのけものにされ、動物の国でも追い出されたという童話を習った。だが、ぼくにはコウモリを嘲笑し、憎悪する気にはなれなかった。

そんな夜だけを飛ぶ褐色の生きものをやにわに思い出したというのも、あの客のショボショボとまたたく金ツボ目が、コウモリに似ていたからではないか？ ――いや、ぼく自身の目つきこそコウモリそっくりにちがいない……。

ぼくは戦後『コウモリとシバ三郎』というコウモリが好きで飼育する少年の童話を書き、『コウモリ』という詩を作ったことがある。

……
はるかな夕ぐれどき
金粉だらけの風のなかを
それはブーメランのようにとんでいた。
柄のないコウモリ傘のむれが。

いまわたしの長女は六つ
コウモリは動物園にいるのかとたずねる。
なるほど！
このごろ、夕ぐれが来ても影のしゃれ者は来ない。
焼けあとにはやりきれない雨ばかりがふり
にょきにょきはえているものは
キノコに似たコウモリ傘の柄ばかりだ。
……

（昭和二十五年四月「天秤」第一号）

その六つの長女さえも、いまは大学を卒業してしまった。

以来、コウモリを見ない。

〈つづく〉

ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを！

三恵洋服店

元町4丁目　TEL ㉞ 7290

よろずお誂衣縫上處

神戸シャツ

大丸前　TEL 33・2168

高級紳士服専門店

神戸テーラー

さんちかメンズタウン　TEL ㊴0388
生田区北長狭通2（阪急西口）　TEL ㉝2817・3173

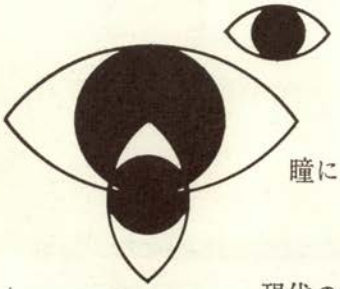
The Cosmopolitan
Valentine F. Morozoff

コスモポリタン
チョコレート・キャンデー

神戸本社	神戸市生田区三宮町1丁目170	電話 33－5304
神戸直売店	神戸市生田区三宮町1丁目	電話 33－1217
大阪堺筋店	大阪市東区淡路町2丁目	電話231－6979
大阪心斎橋店	大阪市南区安堂寺橋通4丁目	電話251－4182
東京銀座店	東京都中央区銀座8丁目	電話571－2303
東京新宿店	東京都新宿区角筈1丁目 新宿ステーションビル地下2階	電話352－2436
東京有楽ビル店	東京都有楽町 有楽ビル	電話213－2821
東京国際ビル店	東京都丸ノ内 国際ビル	電話212－3746

高級きものとおび
しみぬき・活洗専門店

平野
つるや本店
兵庫区神田町125
(家庭裁判所前東1丁)
TEL㉞6932



瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員
国際コンタクトレンズ研究所
神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一（三宮駅前）
神戸国際会館内 TEL（22）8161・（23）2570

ご贈答に風味豊かなカステーラ
長崎堂本店

本店＝大橋町5大五ビル	(61)	0553－4
新開地店＝松竹座前	(56)	2423
元町店＝元町6	(34)	4130
さんちかスイーツタウン	(39)	3625

やっぱりうまい
むさしのとんかつ

コーベ・三宮
ムサシ
でんわ㉝三七七一
三一〇八

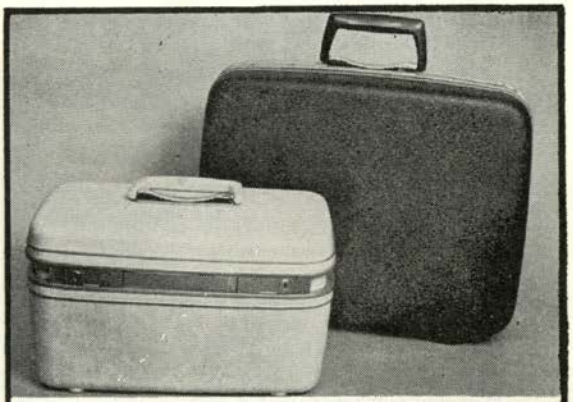
おすし
てんぷら
榮彌

本店　大丸前・三宮神社東
TEL ㉝ 5772
5674
（毎週月曜日休み）
支店　さんちか味ののれん街
TEL ㊴ 5233

営業時間
A. M. 11.30～P. M. 9

洋菓子 喫茶 db CASCADE
カスカード

本店　三宮センター街　TEL〈33〉2993
支店　三宮柳筋店　TEL〈39〉8530
垂水国鉄ショッピングセンター店　TEL〈76〉1964
甲南店　TEL〈41〉2308

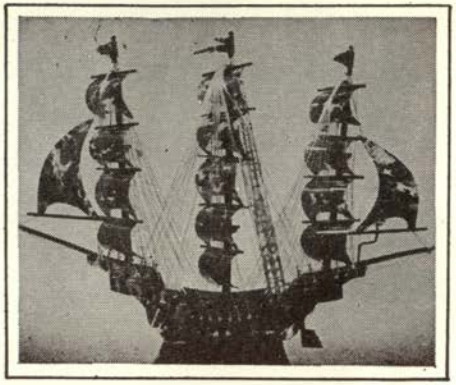


大上鞄店・いなみ
元町通1丁目　TEL 33・3962
さんちかメンズタウン　TEL 39・4627

神戸っ子のみんなに愛される落ちついた喫茶店

TEA ROOM ai 喫茶 愛

★神戸・元町本通元一ビル2階　TEL (32) 0958



センスあふれる
べっ甲専門店
太田鼈甲店
元町1丁目　TEL ㉝6195

洋酒の店
OK
小川深雪
阪急西口下る京町筋
TEL 〈39〉 1413

創業明治二十五年
履物の山下
古い老舗に新しいセンス

神戸　三宮センター街
TEL ㊴ 0256
確実正札　完全冷暖房
静かに品選びの出来る店

連載小説〈第二十二回〉

兵庫の女

武田繁太郎
え・松岡寛一

★あらすじ

まつをは十五才で広島の生家をとびだして鐘紡の女工となり、同じ職場で働いていた安福利一と結婚。共稼ぎのかたわら内職に精を出し、やがて呉服の店、かたち屋をもった二人は順調な毎日をすごす。

結婚して二十年、あきらめていた子宝にも恵まれ、中橋家具店の中橋善三郎が市会議員に立候補すると、利市は勇躍として運動に走りまわる。そして中橋は当選。利市も「南栄商店連合会」の会長に選ばれた。

ちょうど年末の売出しに入った商店街を、南栄商事の創立準備のために東奔西走した利市は、年が明けた三日の夜から扁桃腺炎に見舞われ、平熱に下った後の無理がたたり余病の急性腎臓炎に襲われた。病状は一進一退を続けていたが、三月下旬のある日病状は急変し、京都で急を聞いてまつをが帰った時、すでに利市の面には白い布がかぶせられていた。楽しみにしていた息子良治の入学式をも待たずに……。

利市の葬儀は、南栄商店連合会葬として、安福家の檀邦寺である大仏前の宝山寺で営まれた。宝山寺は、浄土真宗西本願寺派の末寺で、江戸時代からつづいた兵庫では由緒のある古刹だった。

葬儀には、生前の利市の人徳を慕って、二百名にのぼる会葬者が、宝山寺の本堂をうずめた。納棺まえの遺体を浄める湯棺のときにも、希望者がわれもわれもとつめかけ、遺族がろくに仏にちかよれぬほどだった。

盛大な葬儀がおわると、野辺の送りの列が、先頭に安福利市の名を大書した高い幟をかかげて、宝山寺の山門をくりだした。

火葬場は会下山の奥にあった。幟のあとには、華麗な白木造りの柩がつづいた。「三人組」と中橋と紀州屋を両先端にして、後続には、とくに選ばれて鐘紡のむかしの仲間たちが、悲しみのうちにも晴れがましい面持ちで、亡き親友の柩をしっかりと担いでいた。

柩のあとには、百台にちかい人力車が延々とならんでいた。七条の袈裟できらびやかに盛装した十数人の導師の車につづいて、遺児の良治と相乗りした喪主のまつを、モーニングに山高帽姿の森川県議、連合会の役員たち、それに、鐘紡の幹部連中の姿もみうけられた。

前後一丁にも及ぶ長い葬列は、大仏前から、柳原、兵

庫駅わき、永沢町の市電通りをへて、上沢二丁目からきゅうな葬礼道の坂を、会下山の火葬場めざしてしずしずとすすんでいった。道ゆく市民たちがみな目をみはったほど、それは稀にみる盛大な葬列になっていた。

初七日もあっというまにすぎ、葬儀のあわただしさがようやくおさまったふた七日の夜、法要をすませたあとの仏間に、まつをを中心にして、連合会の幹部連中があつまった。森川や市橋も顔をそろえていた。一座の相談は、南栄商事の今後の在り方をどうするかという問題であった。

ひとしきり、故人の生前の想い出話に花が咲いたところで、まず森川が口火を切った。

「どうだろう。南栄商事は、故人がすっかり基礎がためをしたところで、残念にも亡くなってしまった。わたしは、このさい故人の遺志を尊重して、ぜひともこの会社を誕生させたいと念願しているのだが、諸君の率直なご意見をうかがいたいのだ」

中橋がすぐ合槌をうった。

「わたしも当然そうあるべきだと考えていた。安福はあいう人柄だから、口にこそださなかったが、南栄商事のことだけは、死ぬまで心残りだったろうと思う。その胸中を察して、あとに残ったわれわれで、南栄商事をもりたてていくのが、故人へのなによりのはなむけになり、また、われわれの義務でもあると思うのだ。どうだろう？」

だれにも異議はなかった。紀州屋が、そこでひと膝、膝をにじって言った。

「会社を存続させるということで、みなさんのご賛同をえられるんなら、ここで、ひとつ提案がありますのや。それは、故人の遺志を継ぐという意味からも、会社の代表者は、安福にかわって奥さんのまつをはんになってもらうのが、いちばんふさわしいのではなかろうか、ということです。みなさん、どうですやろか？」

紀州屋は一座の顔をみわたした。

「うむ。そりゃ、いい考えだ」

森川が腕組みをしたまま、うなづいた。

「こういうことを言っては、故人に失礼かも知れんが、奥さんは〝かたぢ屋は女房でもつ〟とまで噂された方だ。わたし自身も、かねがね、女ながらも奥さんの商人としてのすぐれた手腕には感服しておった。南栄商事の社長になっても、かならずやみなさんの期待にこたえるだけの仕事をやりとげられるだろうと、あたしは太鼓判をおしてもいい。また、それだけの経済的な実力を持っておられる」

「わたしも賛成ですな」

御崎薬局が、金縁眼鏡をきらりとひからせながら言った。

「まあ、社長が女だということで、あるいはやりにくいような場合もでてくるかも知れん。だが、そういうときには、男のわれわれが協力して、社長をできるだけもりたてていけば、うまく経営していけるんじゃないか。わたしは、社長にはやはり、奥さんが最適任やと考えますな」

「うむ。おおよそのみなさんの意見は賛成のように判断されるが、この辺でひとつ、肝心の奥さんの気持をおききせんと。どうでしょう。みなさんの要望にこたえて、ぜひ社長をひきうけてくださらんか」

それまで、まつをは、じっと面を伏せたまま、一座の意見に耳を傾けていた。彼女はひとことも口だししなかった。だが、森川にうながされると、彼女ははじめて面をあげた。

「みなさんのご好意は、ほんまにありがたいことやと感謝しております。亡くなった主人も、草葉の陰とやらで、心から喜んでくれていることやと思います」

まつをは、ふかぶかと頭をさげて礼を述べたが、

「せっかくのみなさんのご好意を無にするようで、申しわけございませんが、主人の遺しました仕事については、主人が亡くなりましたときから、わたしは決心をつ

けておりました」

一座の視線がいっせいにまつをのつぎの言葉を待ちかまえた。

「ご存知のとおり、南栄商事の創立は、主人にとっては生涯をかけた事業にする覚悟でした。この会社が成功したら、わしもやっと男になれる、と主人は口ぐせのように申しておりました。言うてみれば、主人の生涯の夢でした。その夢を見はてんうちに、主人は病いにたおれてしまいました。ほんまに、死んでも死にきれん気持ちやったろうと思います」

腕組みをした森川は、瞑目したまま、いくどもうなづいていた。まつをは言葉をつづけた。

「この主人の遺志をついで、わたしにあとをやってゆけ、と仰有ってくださるみなさんのご好意は、涙がでるほどうれしゅうございます。けど、ぜひここで、みなさんにわたしのわがままな考えを許していただきたいと思うのでございます」

一座の視線が、こんどは期せずして不審の色に変った。

「南栄商事は、幸いにして、みなさんの非常なご協力を頂けることができて、主人も感謝しておりました。けど、さいしょは、万一みなさんのご協力をえられんような場合でも、主人は独力ででもこの仕事をやりとおす覚悟でおりました。もちろん、妻のわたしなぞの世話にもならんつもりでした。やはり、主人には一世一代の仕事でした。その気持ちを、わたしは大事にしてあげたいと思うとります。主人の夢を、美しい夢のまま、いつまでもそっとしておいてやりたい、とわたしは願うとります」

だれもがじっとうなだれたまま、まつをの言葉にききいっていた。

「みなさんのご意見がご尤もなことは、わたしにも重重わかっております。けど、わたしのわがままな願いをおききとりいただいて、南栄商事の件は、すべて白紙にかえしていただけんもんでしょうか」

意外なまつをの申し出に、しばらくは、だれもが黙し

たまま答えなかった。一座には重ぐるしい沈黙が流れたが、やがて、森川が、その沈黙を破るようにふっと大きく吐息して言った。

「よし。奥さんの気持ちはようわかりましたよ。安福君の一生をかけた夢を、いつまでも美しい夢のまま、みまもっていきたい。奥さんとしては、亡き良人を思う当然の気持ちだと言えるかも知れん。奥さんがそこまで潔ぎよう決心されておるのなら、われわれとしてはもうなにも言うことはない。なあ、中橋君、君はどう思う?」

「そうですなあ。南栄商事を白紙に戻すのはまことに残念だが、しかし、考えてみれば、あとに残ったわれわれが仕事をはじめてみて、もし失敗するようなことでもあれば、冥土にいる安福に申しわけがたたんからなあ。それこそ、まつをはんの言う安福の夢に泥をぬるようなことになる。その点も、よう考えんといかんなあ」

「うむ」

と、紀州屋も、思いきりのいい表情で、

「こら、やっぱり、まつをはんの言うとおりにしておくほうがええかも知れん。『三人組』のわしらとしてもこれからも、安福を思いだすたびに、あいつが生きてたらなあ、いまごろは南栄商事も盛大にやっとるやろ、なぞと、いつまでもええ想い出になって、安福はわしらの胸のなかに生きていてくれる。そのほうが、わしらとしてもよっぽどうれしい話や」

しゃべっていくうちに、紀州屋の目にはうっすらと涙がひかっていた。

だが、座がしめっぽくなるのを防ぐように、森川がちょっと居ずまいを正して言った。

「それじゃ、どうだろ? 話が一変するようだが、みなさんも異議ないものとして、このさいは、奥さんの気持どおりに、南栄商事は設立を中止することにきめようじゃありませんか」

全員賛成になった。

「ありがとうございます」

ただそれだけ言って、まつをは、畳に面を伏せると、はじめて、かすかな嗚咽に肩をふるわした。良人が亡くなってから、他人にみせるはじめての涙であった。

〈次号につづく〉

＊ 神戸の催物ごあんない ＊

▷俳優座公演 "どれい狩り"
12月1・2日PM6：15　3日PM1：30　出演／仲代達矢、関口銀三、岩崎加根子、谷育子ほか　会員券　神戸労演12月例会　於神戸国際会館

▷神戸外大混声合唱団リサイタル
12月4日PM6：30　入場料金／￥200　主催／神戸外大　於神戸国際会館

▷兵庫県工芸美術展（工美展）
12月1～5日　永沢永信、市野弘之、吉浦美好ら十数名の作品　於そごう百貨店8階画廊

▷神戸大学交響楽団定期演奏会
12月8日PM6：30　入場料金／￥200　主催／神戸大学交響楽団　於神戸国際会館

俳優座公演 "どれい狩り"

▷女流陶芸展
12月8～13日　日本における一線級の女流陶芸家の作品を集めて。坪井明日香ほか11名。壺、皿、食器ほか。

▷国際少年少女交歓の集い
12月9日PM1：00　入場無料　主催／神戸市　於神戸国際会館

▷歳末同情週間義金募集 "年忘れ素人演芸大会"
12月10日PM12：00　入場料金／￥300　共催／兵庫県神戸市、神戸4ロータリークラブ、朝日新聞、大阪厚生文化事業団、神戸国際会館　於神戸国際会館

▷ウィーン・アカデミー合唱団
12月11日PM6：30　会員券　労音12月例会　於神戸国際会館

▷クリスマス・ポップス・コンサート
12月14日PM7：00　15日PM6：30　出演／中沢寿士とMBSジャズ・オーケストラ、外山雄三と京響　高田浩平（唄）会員券　労音12月例会　於神戸国際会館

▷ベートーベン"第九"
12月23日　PM6：30　出演／外山雄三　指揮京都市交響楽団　入場料金／A 1,000　B ￥800　￥500　主催／兵庫県　於神戸国際会館

▷ザ・タイガース神戸公演
12月28日PM4：00　6：30　入場料金／A ￥1,200　B ￥900　C ￥700　主催／神戸新聞会館　於神戸国際会館

愛読者サロン

★数年来、神戸っ子を愛読している一女性です。先日、私の家に遊びに来ていた三人の友達も、神戸っ子を楽しく読んでいましたが、ある一頁のところでたいへん噴慨していました。どの頁だろうと私もぞいてみますと、画家の向井修二氏が書いておられる〝男の気持〟の頁でした。わけを聞いてみると「女性を侮辱する文章があまりにも多すぎるわ」とのことでした。一度、顔をみたいわなどといい出す始末で、さほど気にもとめていなかった私もびっくり。楽しい文章ではありますが、もう少し、女性をいたわってくださいませんか、ネ。　＜垂水・和泉仲子＞

★東京に住む一読者です。

先日西武百貨店で開催された、おしゃれフェアとうまいもの会に偶然出くわし、お店の方から「神戸っ子」を一冊いただきました。神戸にはまだ一度も行ったことがありませんが「神戸っ子」を読んだところでは、大変明かるい、いい街のようですね。

おしゃれフェア、うまいもの会にしても、センスのいいのに驚きました。機会があればぜひ一度神戸に行ってみたいと思っています。

＜東京／豊島区・一読者＞

★前略ごめん下さいませ。

貴誌のショッピング・バッグ・コンテストに応募しておりましたところ当選の葉書をいただきました。先日買物のついでにセンター街のペニヤに行きましたところ、大変立派なカーディガンを頂き、あまり高価な品なので驚いております。お店の方もとても感じ良く応待して下さり、本当にうれしゅうございました。次の買物は是非このお店でしようと思いました。貴誌からもどうかよろしくお礼を申して上げて下さいますようお願いいたします。

「神戸っ子」は毎号楽しみにしております。ご発展を心からお祈りしております。　＜葺合区・時本薫＞

発行にいろいろとお世話いただいた方がた

木柏嘉嘉金大小小岡岡岡牛上榎石井石乾砂荒有浅朝青安
曽比
下井納納井淵野根崎部崎尾田並野上野　野木岡田奈木部
文
健毅正元ツ一真　伊真吉将正成左信豊　信長　重正
都衛
繁一六治彦ム夫造忠子一朗雄一明門一彦仁晃道平隆雄夫

竹津玉田田田田滝滝竹角砂塩新白雀坂阪古後上小小小小
馬高井中中村宮川川中南田路谷川部口本林藤林林泉林磯
準和　健寛孝虎勝清　猛重義秀　昌干　喜末英秀徳芳良
之一之
助一操郎次介彦二一郁夫民孝雄源介雄勝楽二一雄一夫平

神行山若百村宮宮松福深原畑原野南中直外
戸
青吉口杉崎上地崎井冨水　口沢部西木島
年
会哉泰　辰正襄辰高芳惣泰専忠幸圭　太健
二　一次三　一
所女弘慧雄郎二雄男美吉良郎郎郎三勝郎吉

編集後記

★メリー・クリスマス!!

神戸の聖夜は、教会のキャンドルサービスや真夜中のミサにほんとの静かな祈りがあります。

開港百年祭と七月の集中豪雨。吉田茂氏の国葬、そして世界は紅衛兵とベトナム戦争。明暗のあけくれのなかで戦争だけはやめてほしいものこの平和への願いを日本人の一人としてクリスマスの祈りにこめたいと思います。

＜小泉康夫＞

★対話12ヵ月、淑女入門、男の気持、ペッコ、KOBE・LOOK、パイオニア神戸、ズーム・アップなどが12月をもって終了いたします。ご愛読ありがとうございました。新年号からまたフレッシュな企画読物を連載いたします。ご期待ください。

＜小泉美喜子＞

★よしにつけ悪しきにつけその人の人生を左右するある時期が一生のうちにいくつかあるとすれば、今月はその時期の一つであるかもしれぬとふとそんな考えが走る。（ちょっとオーバー?）夜風がいやに身にしみる季節。

＜川端耿一＞

★神戸っ子ジャズメンによる深夜のジャズ饗宴の取材にあたって、熱っぽい雰囲気に酔ってしまう。エネルギッシュな彼等の演奏は〝なにかに打ち込む〟ことを教えてくれた。

＜赤松慶三郎＞

★朝比奈隆、辻久子両先生の〝クリスマス音楽対談〟は、神戸の音楽界や最近の音楽教育について等、内容豊かなものとなった。なかでも神戸の芸術祭のあり方についての厳しく鋭い批判は多いに同感であった。

＜土屋苑子＞

★今年もあとわずか。何もなかったようでいて私の身辺にもさまざまな事柄が起る。しかし、日ごと夜ごと続けられている悲惨なベトナム戦争を思うと、それはほんのささいなこと。来年こそは……。

＜赤沢須美子＞

神戸っ子ごあんない

★月刊神戸っ子を毎月お読みになりたい皆さま、また神戸を離れているお友達に、神戸の香りをおとどけになりたい方は、編集室までにお申込み下さい。さっそくお送りいたします。

6カ月分　六五〇円
1年分　一三〇〇円（送料共）

★月刊神戸っ子に紹介されている、神戸の銘店には、お客さまへのサービスとして神戸っ子がおかれています。

★月刊神戸っ子をお買い求めの時には左の本屋さんでどうぞ。

そごう書籍部　そごう八階
コーベブックス　さんちかタウン
大丸　書籍部　神戸大丸五階
漢口堂三宮店　京町筋街
流泉書房　センター街
千本書房　市電平野終点
流泉書房　センター街
文洋堂　国際会館1階
文東館　新聞会館1階
海丸　大前通3丁目
宝文堂　元町通5丁目
甲南堂　国鉄本山駅北口
宝盛館　阪神御影南側
小原光文堂　国鉄住吉駅北口
隆司書房　新開地本通り

★月刊神戸っ子に広告を掲載して、お店を、また商品をご紹介なさりたい方は、月刊神戸っ子編集室へお申込みください。

★神戸百店会の事務局も月刊神戸っ子編集室内にあります。

＊発行／昭和42年12月1日　神戸っ子NO・80
＊編集・発行／小泉康夫
＊発行所・神戸っ子編集室
神戸市葺合区八幡通5ノ96
K・Eビル4階
Tel㉒7037㉒8072
頒価・100円